

2010年度氷河情報センター分科会報告

雪氷研究大会（2010・仙台）において、氷河情報センターのオーガナイズドセッションおよび総会を開催した。オーガナイズドセッションではパタゴニア氷河に関して2件の講演と質疑応答が行われた。引き続き行われた総会では、活動・会計の報告、活動方針・予算案の承認、役員改選、センター活動支援基金の事業実施に関する議論等を行った。

日時：9月28日（火）16：00-18：10（総会17：30-18：10）

場所：東京エレクトロンホール宮城（401会議室）

オーガナイズドセッション：

日本の研究者が精力的に行ってきた氷河調査の中で南米パタゴニアの氷河を取り上げ、現地調査の内容やその成果について紹介して頂いた。

講演の内容は、最初に成瀬廉二氏（NPO法人氷河・雪氷圏環境研究舎）に「パタゴニア氷河研究の先駆けから展開期」と題して、1960年代後半から2000年代に至る、わが国におけるパタゴニア氷河調査の変遷について説明して頂いた。特に多目的かつ組織的に展開された1980年代以降の調査に関して、写真を交えながら調査の様子や観測で得られた成果を詳細に説明して頂いた。

続いて、杉山慎氏（北海道大学低温科学研究所）に「パタゴニア・ペリートモレノ氷河における熱水掘削」と題して、アルゼンチン・南パタゴニア氷原ペリートモレノ氷河における氷河調査を紹介して頂いた。カービング氷河における底面水圧の変化が流動に与える影響を解明するために、2010年2-3月に氷河流動調査と、パタゴニアの氷河では世界初の試みとなった熱水掘削が実施された。掘削を実施するに至るまでの経緯や観測で得られた成果についてお話して頂いた。

限られた時間内でのセッションではあったが、活発に質疑応答がなされた。従来氷河観測が必ずしも十分ではなかったパタゴニアにおける調査・研究結果について、まとまった話を聞く機会を提供できたと考えている。今後も研究の発展が期待されるセッションであった。

総会：

1) 2009-10年度活動報告

1. 2010年度総会の実施
2. 氷河情報センターニュースNo.32の編集・発行（「雪氷」72巻3号，198-202）

3. 雪氷研究大会（2010・仙台）でのオーガナイズドセッションの企画・開催
4. 氷河情報センターHPの一部改訂
- 2) 2009年度会計報告
- 3) 2010-11年度活動計画の承認
 1. 2011年度総会の実施
 2. 氷河情報センターニュースの編集・発行
 3. オーガナイズドセッションの企画・開催
 4. 氷河情報センターHPの改訂および充実
- 4) 2010年度予算案の承認
- 5) 役員改選（○：今回新任，他は継続）

センター長：白岩孝行（北大低温研）

財務幹事：○紺屋恵子（海洋研究開発機構）

庶務幹事：中澤文男（融合センター/極地研）

広報幹事：○櫻井俊光（北大低温研）・岡本祥子（名大）・津滝俊（北大）
- 6) センター活動支援基金の事業実施について

矢吹裕伯氏（海洋研究開発機構）が構築されているモンゴル氷河インベントリを，基金を活用して出版する案が提案・承認された．学会の財務関連の質疑応答および基金を利用した活発な活動が行われるべきであるなど議論が行われた．今後も継続して事業を受け付け，検討していくことになった．事業の提案・実施の方法は以下のように進められることになった．

 1. 総会前にメーリングリストを用いて事業内容と予算を提案（8月頃まで）
 2. 総会にて事業提案を行い，事業実施の可否を決定（9-10月）
 3. 翌年度の予算計画に計上（2月）
 4. 基金の移管と事業の実施（4月から）
- 7) 「雪氷辞典」の改訂について

「雪氷辞典」の改訂にともない，各分科会の編集委員として，氷河情報センターからは中澤文男庶務幹事が推薦された．

文責：

津滝俊（北海道大学大学院環境科学院/低温科学研究所）

中澤文男（新領域融合研究センター/国立極地研究所）